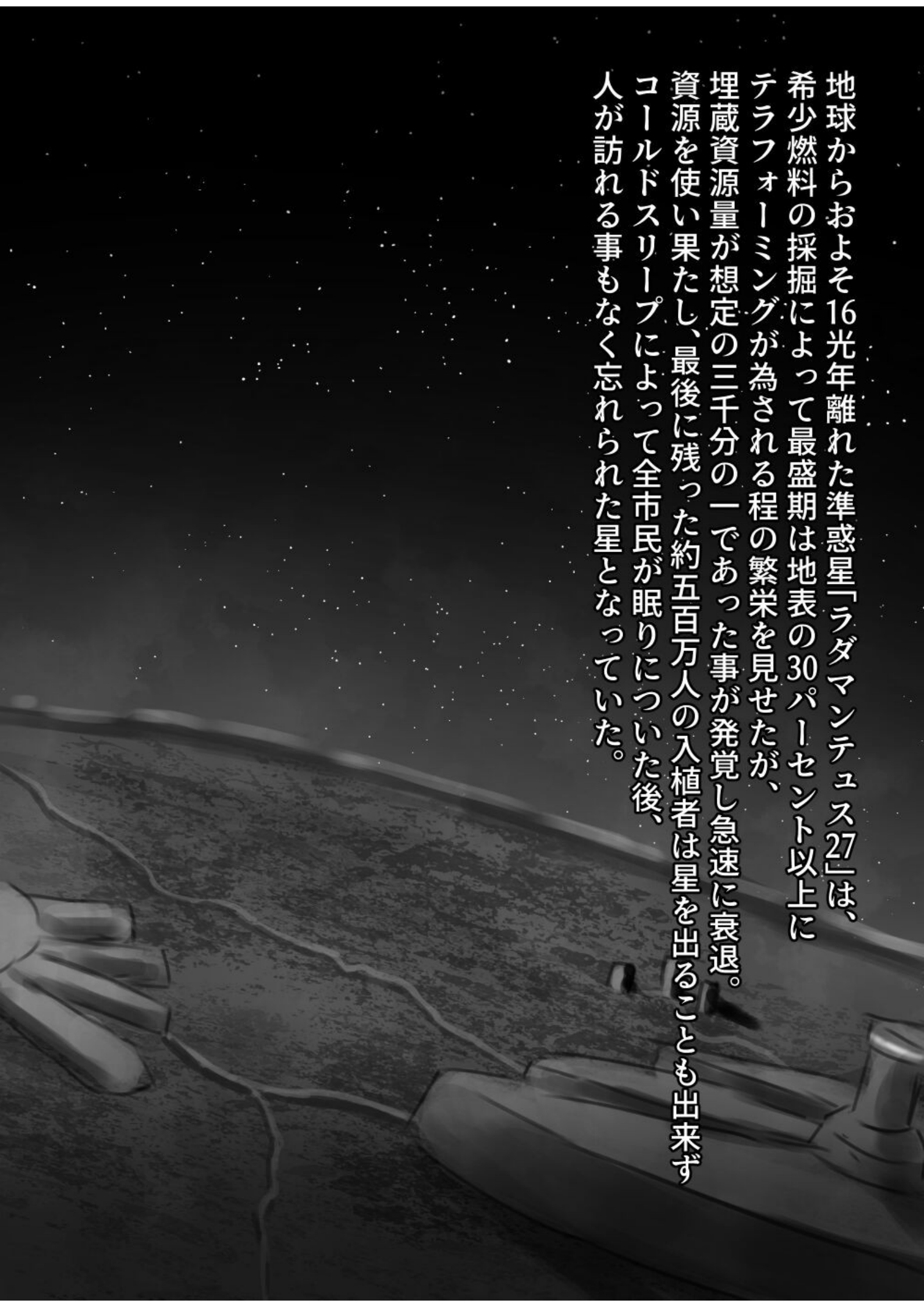
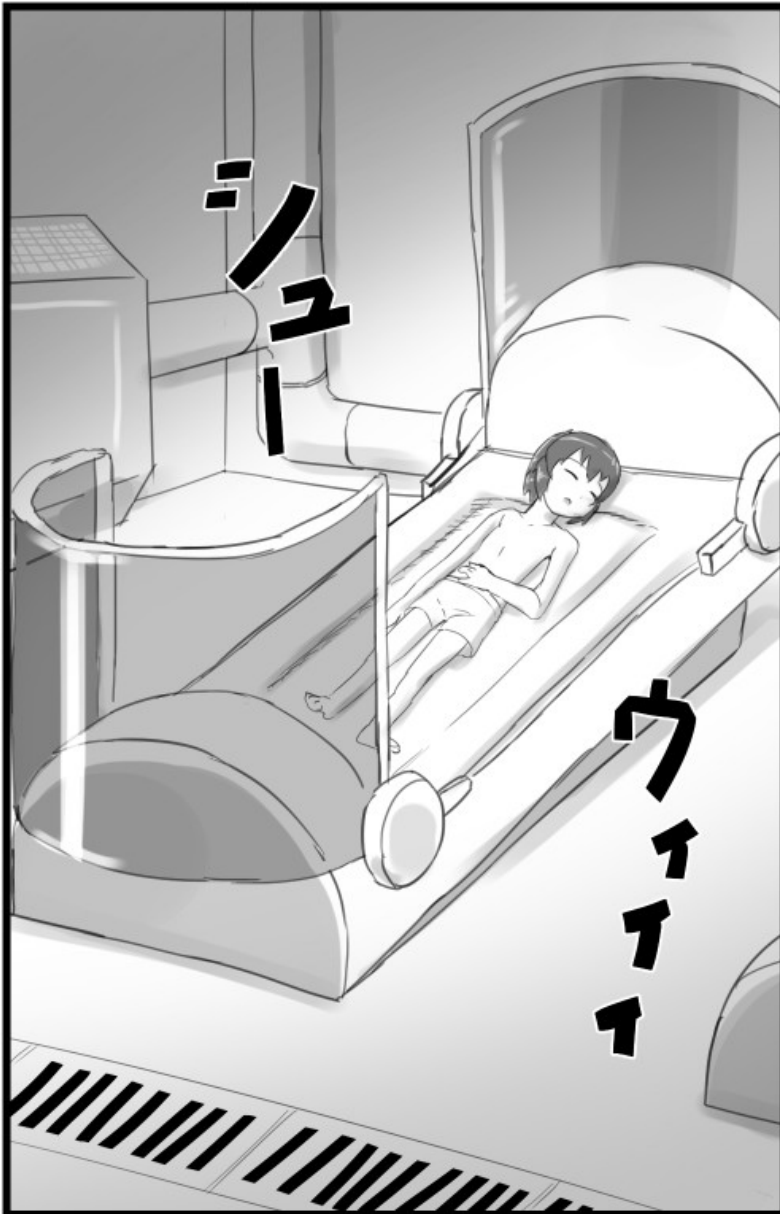


DWARF PLANET-27





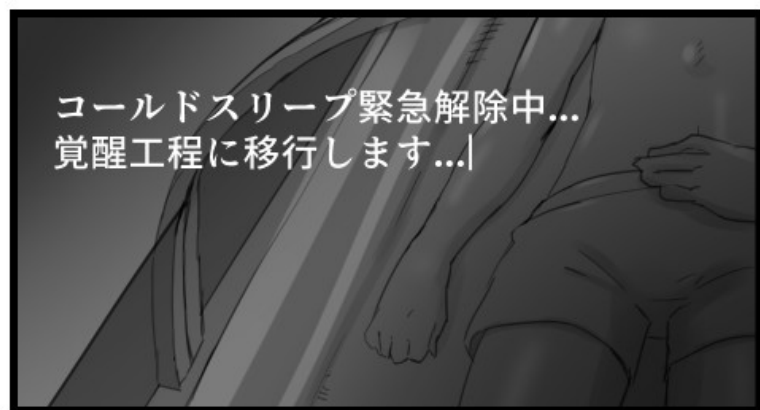
地球からおおよそ16光年離れた準惑星「ラダマンテユス27」は、希少燃料の採掘によって最盛期は地表の30パーセント以上にテラフォーミングが為される程の繁栄を見せたが、埋蔵資源量が想定のおよそ三千分の一であった事が発覚し急速に衰退。資源を使い果たし、最後に残った約五百万人の入植者は星を出ることも出来ずコールドスリープによって全市民が眠りについた後、人が訪れる事もなく忘れられた星となっていた。



スリープ緊急解除中...
エラー：可動部の異物を取り除いてください

コールドスリープ緊急解除中...
04エラー：可動部の異物を取り

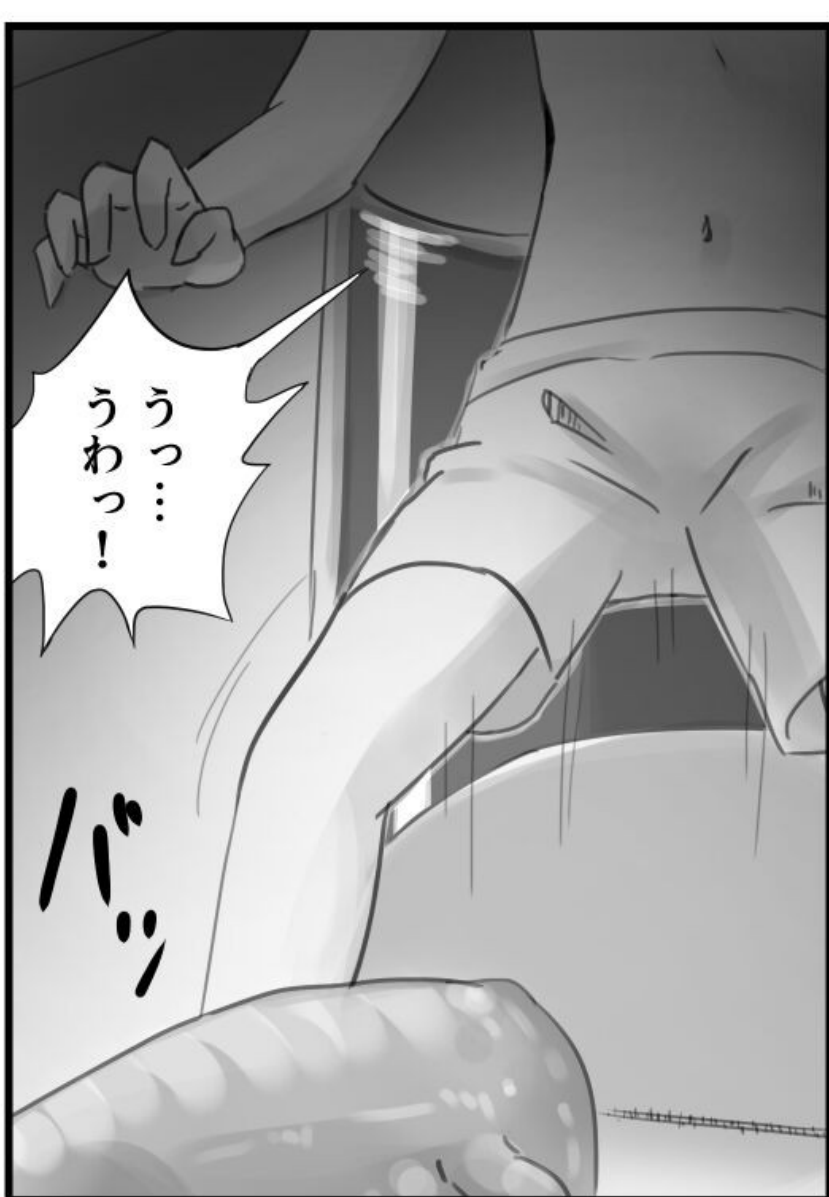
スリープ緊急解除中...
エラー：可動部の異物を取り除いてください



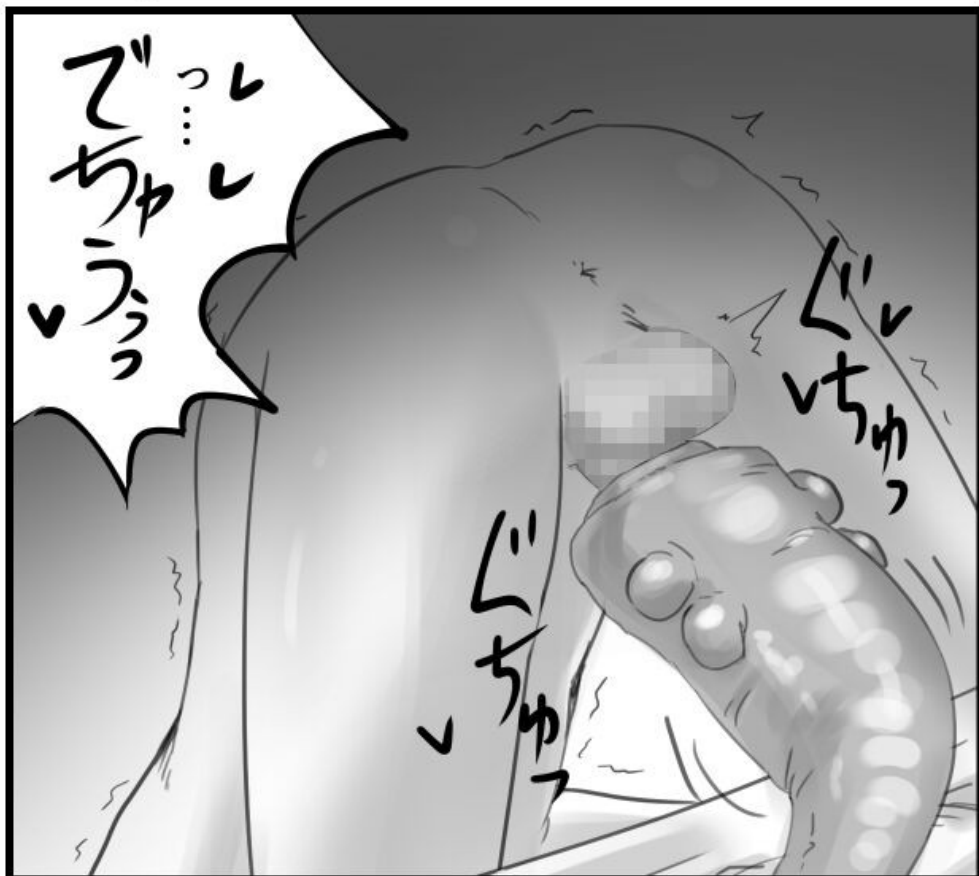
コールドスリープ緊急解除中...
覚醒工程に移行します...|

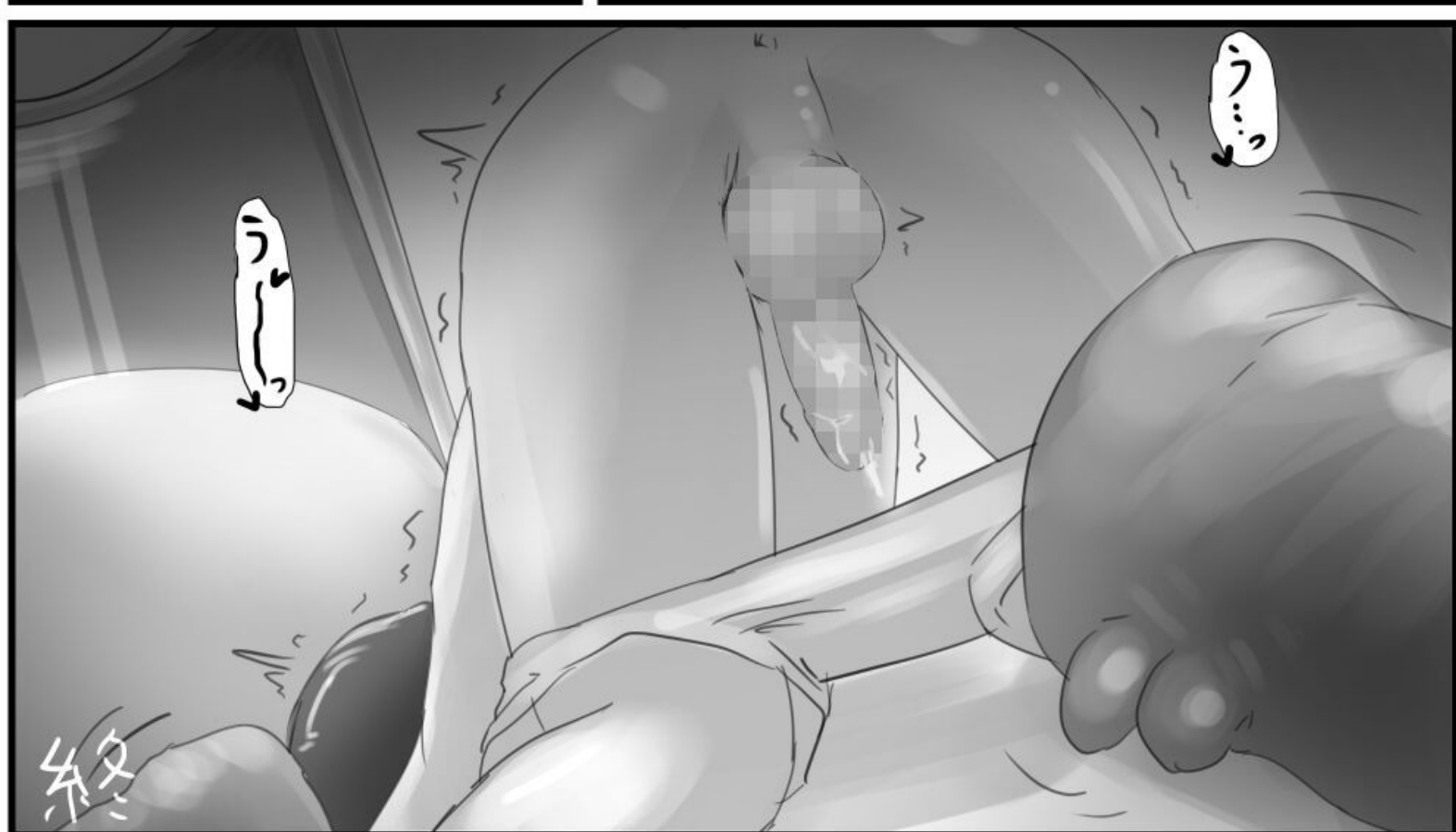
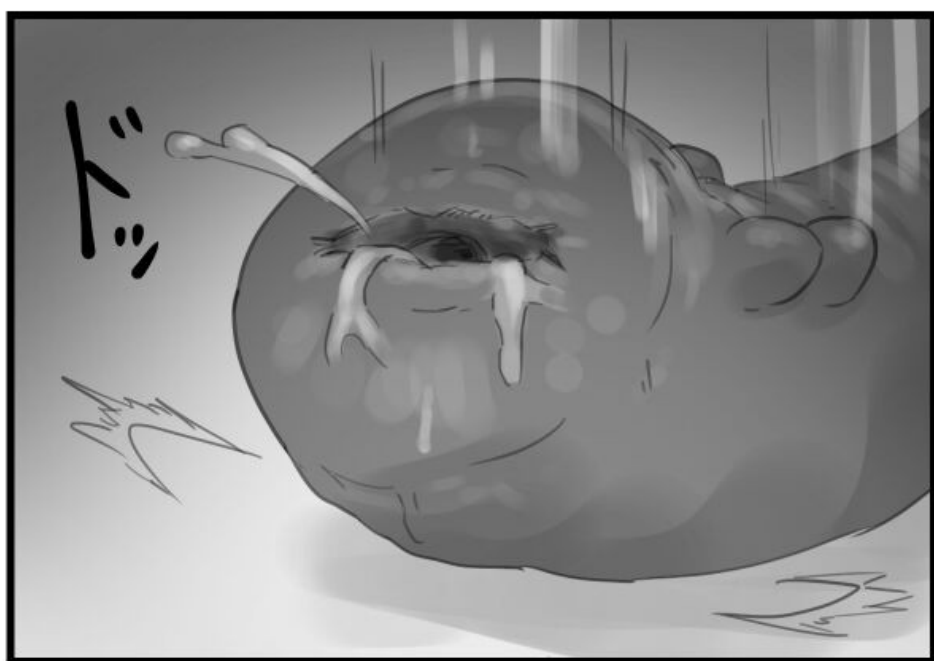










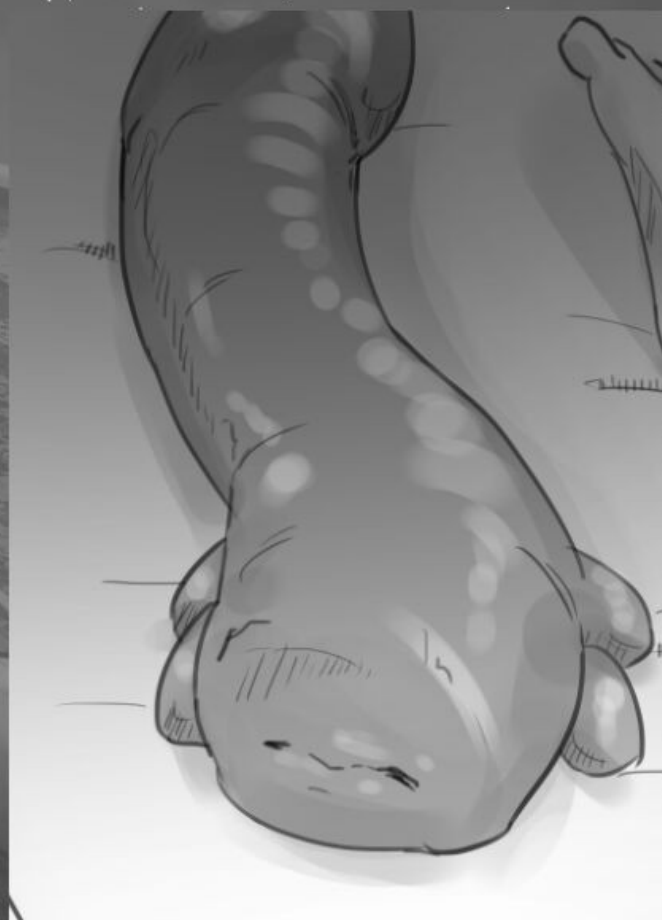


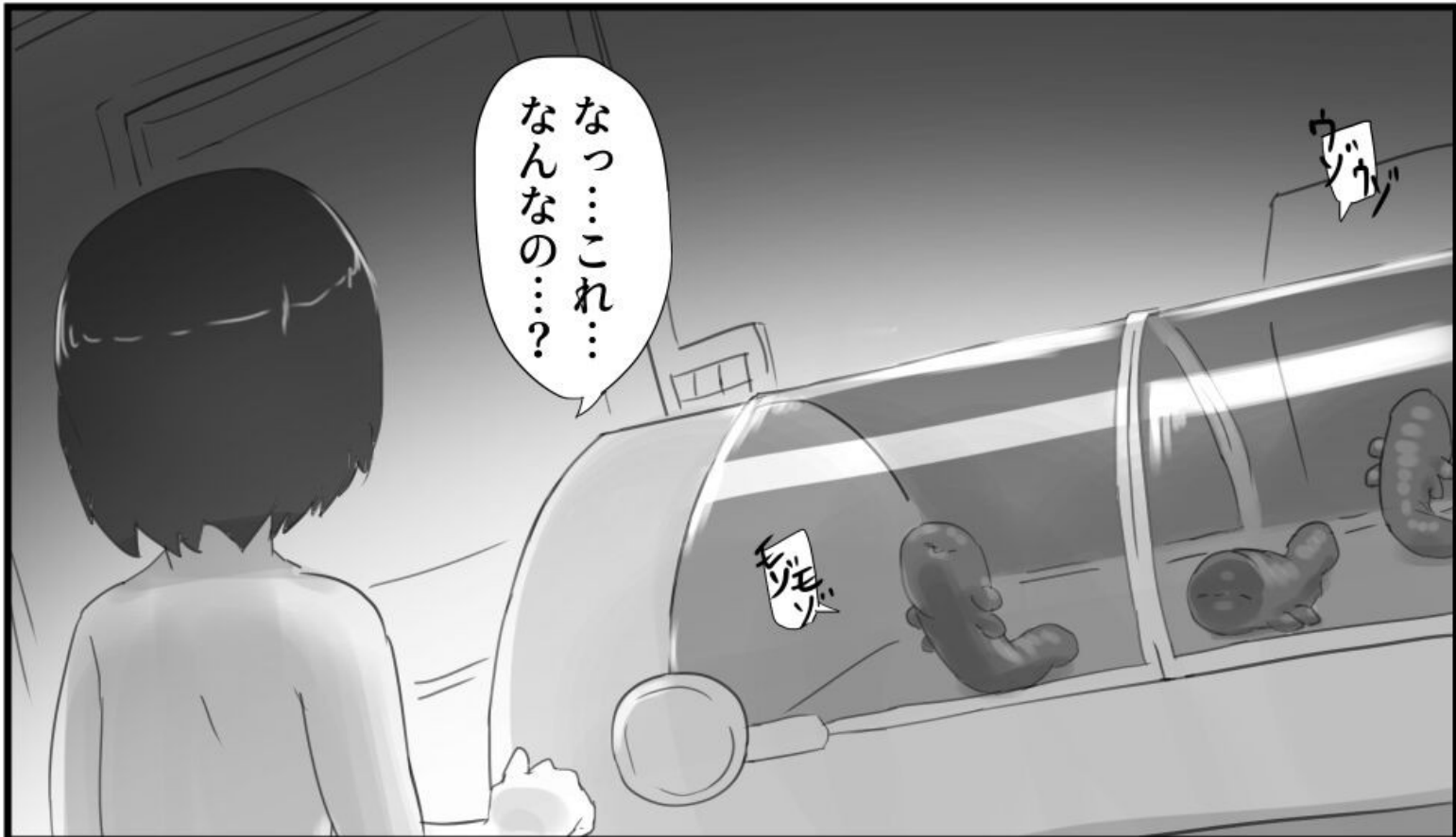
ラダマンテュス27

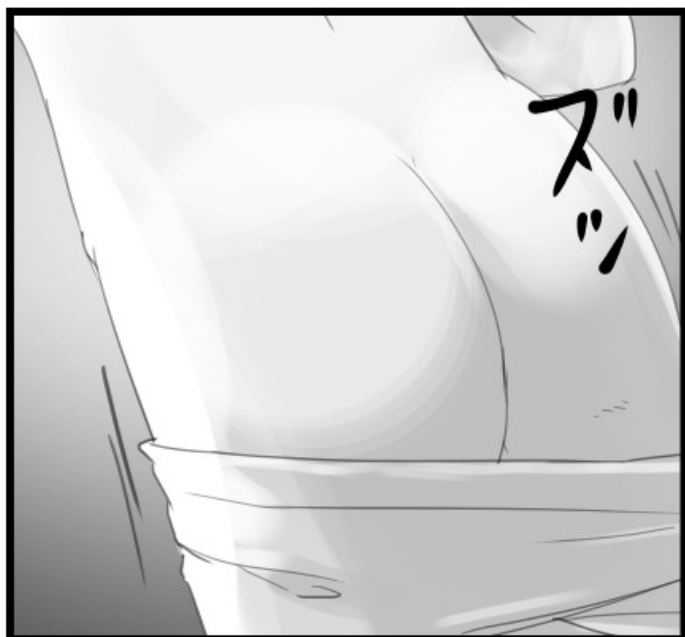
地球から約16光年離れた場所にある準惑星。希少燃料の埋蔵場所が酷く偏っていたために測定を誤り、一時期の繁栄が嘘のように衰退した。それでも一時期は非常に繁栄していたため取り残された住人は少なくなく、現在は最低限のエネルギーで運用される冷凍睡眠装置で全住民が眠り続けている。

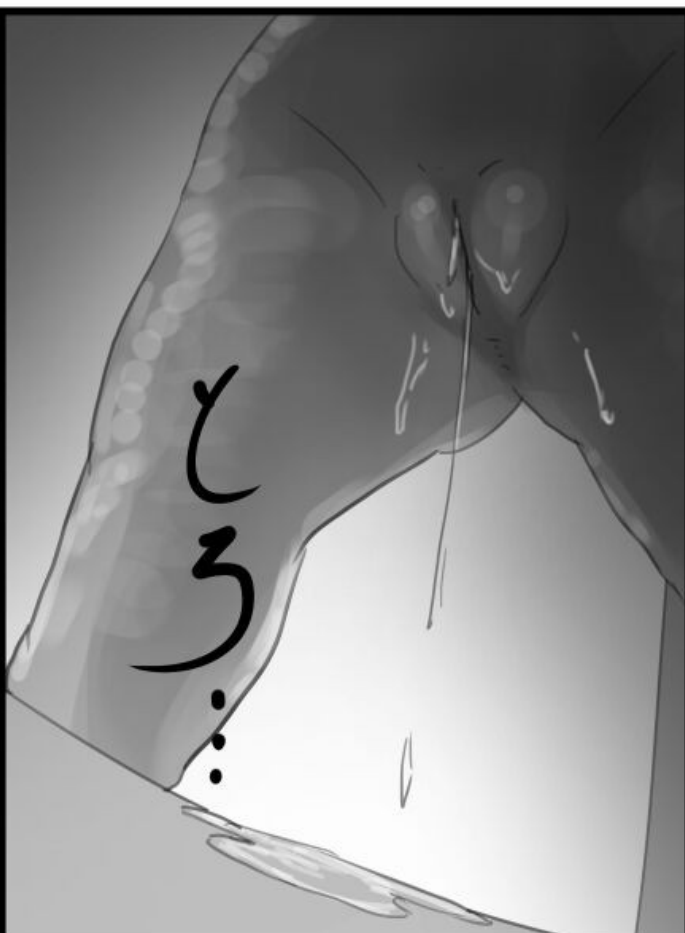
芋虫型生命体

ラダマンテュス27に突如現れた謎の生命体群。宇宙から現れたのか、元々生息していたのか、出自は不明。いくつかの種が存在するが、目的は共通して住人との生殖行為と思われる。芋虫型の種は数匹の群れで活動しており、前面の口に似た孔によって生殖を行う。









やだっ! やだっ! やめてっ!

ひっ!?
なっ...何して...っ
やだっ!?
やめてっ!

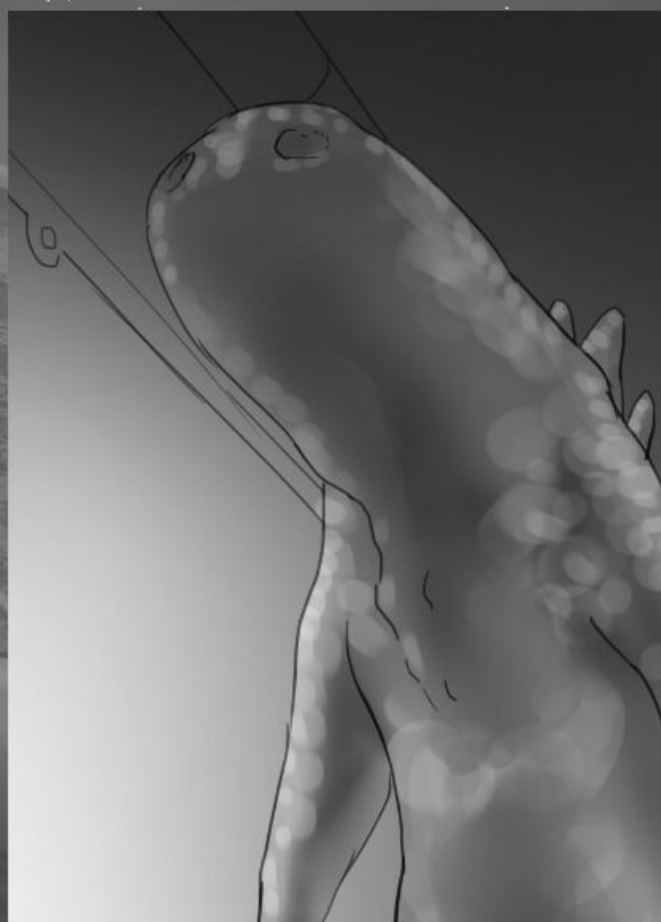


入植者

ラダマンテュス27のあるエリアで
冷凍睡眠していた少年。
彼以外の他の住人は
どうなったのかは一切不明である。

準人型生命体

ラダマンテュス27に突如現れた
謎の生命体群。
宇宙から現れたのか、元々生息
していたのか、出自は不明。
いくつかの種が存在するが、
目的は共通して住人との
生殖行為と思われる。
人型に似た種の姿は
人間への擬態と言うよりも、
より人間との交配確率を
高めるために全身の構造を
変化させた結果とされる。



ヒタヒタ

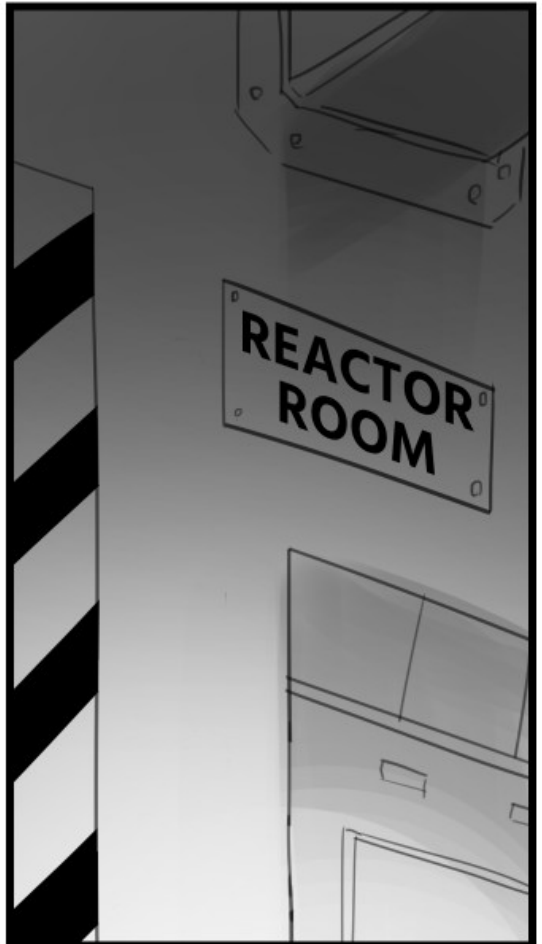
やっと行った…

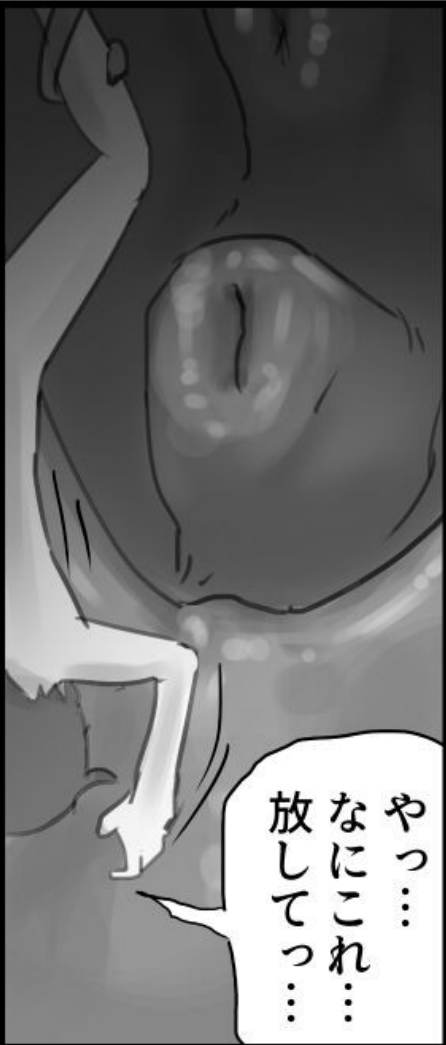
ガッパ

とりあえず…
誰か居そうな場所に…

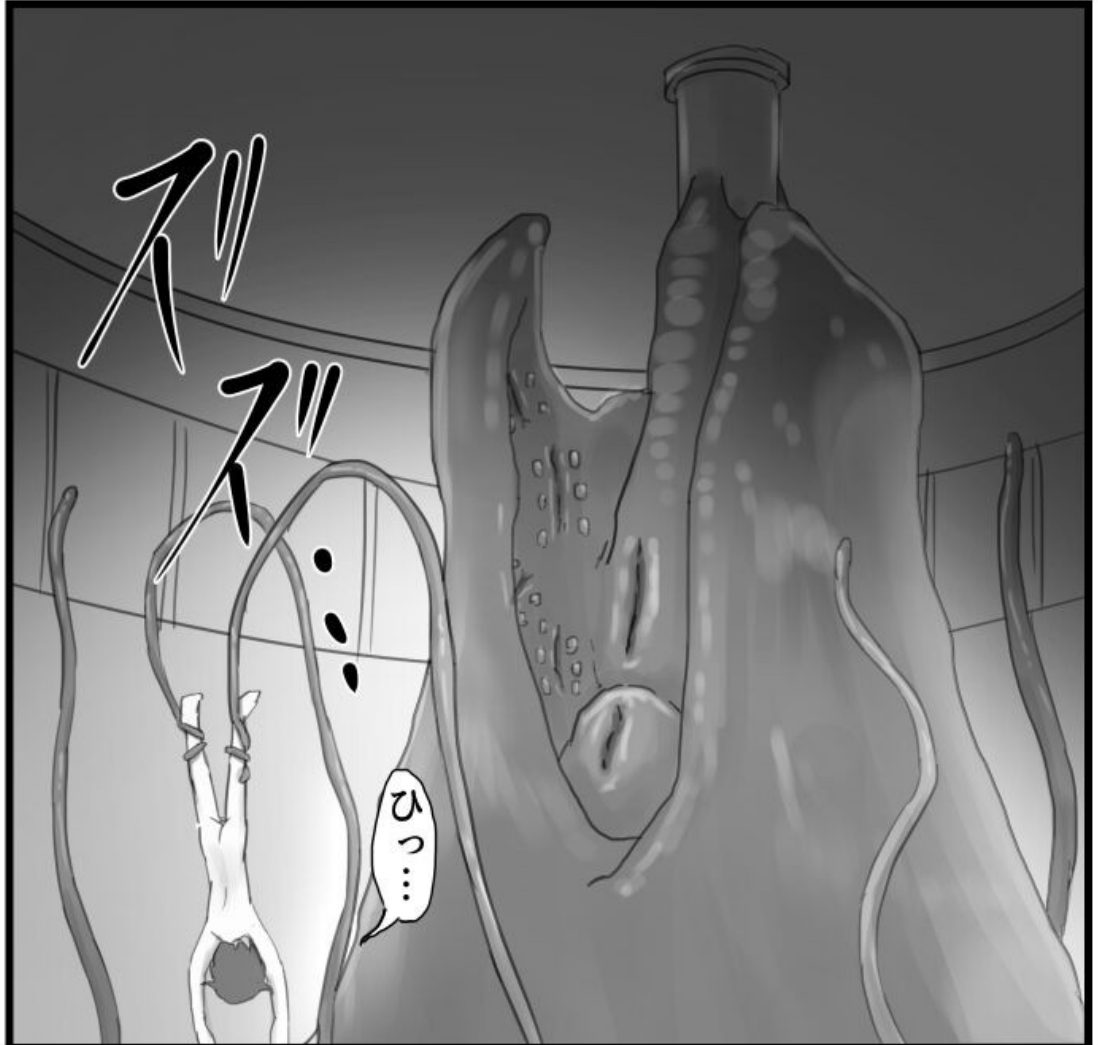
パンツ
とりれた…

どうしよう…
あんなのが
いるなんて…





やっ...
なにこれ...
放してっ...

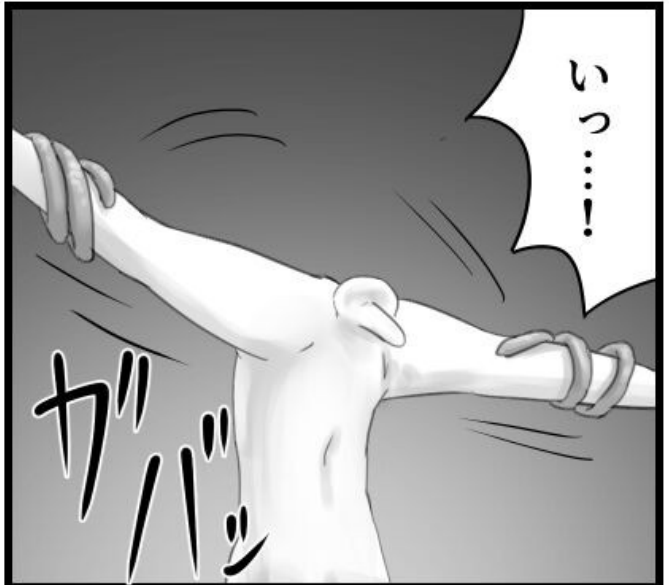


ひっ...

ズッ
ズッ



やっ...!!
痛いっ!!
やだあっ!



いっ...!!

ガッ
バッ



うわっ!?

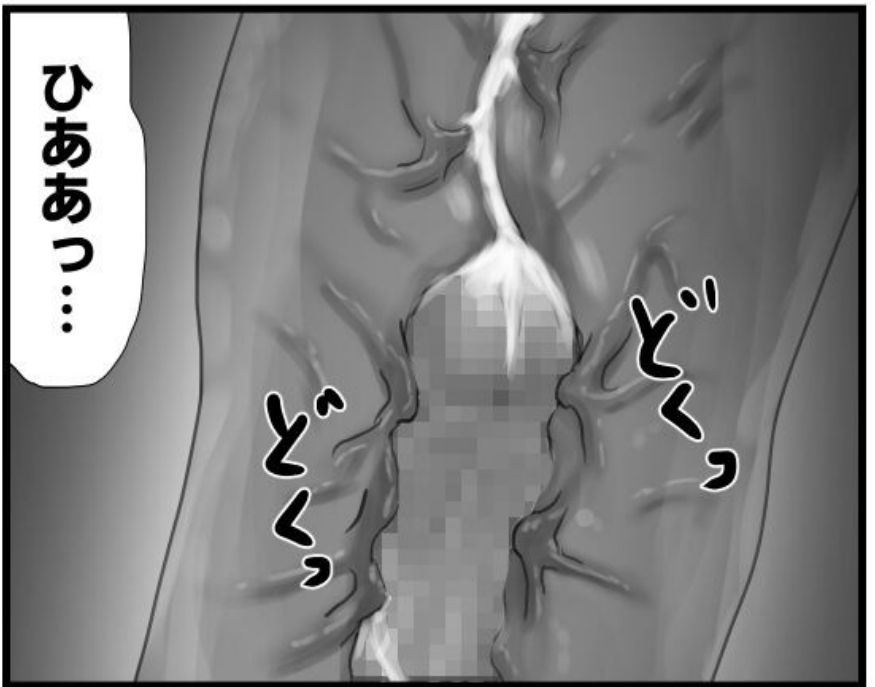
ズ
ズ

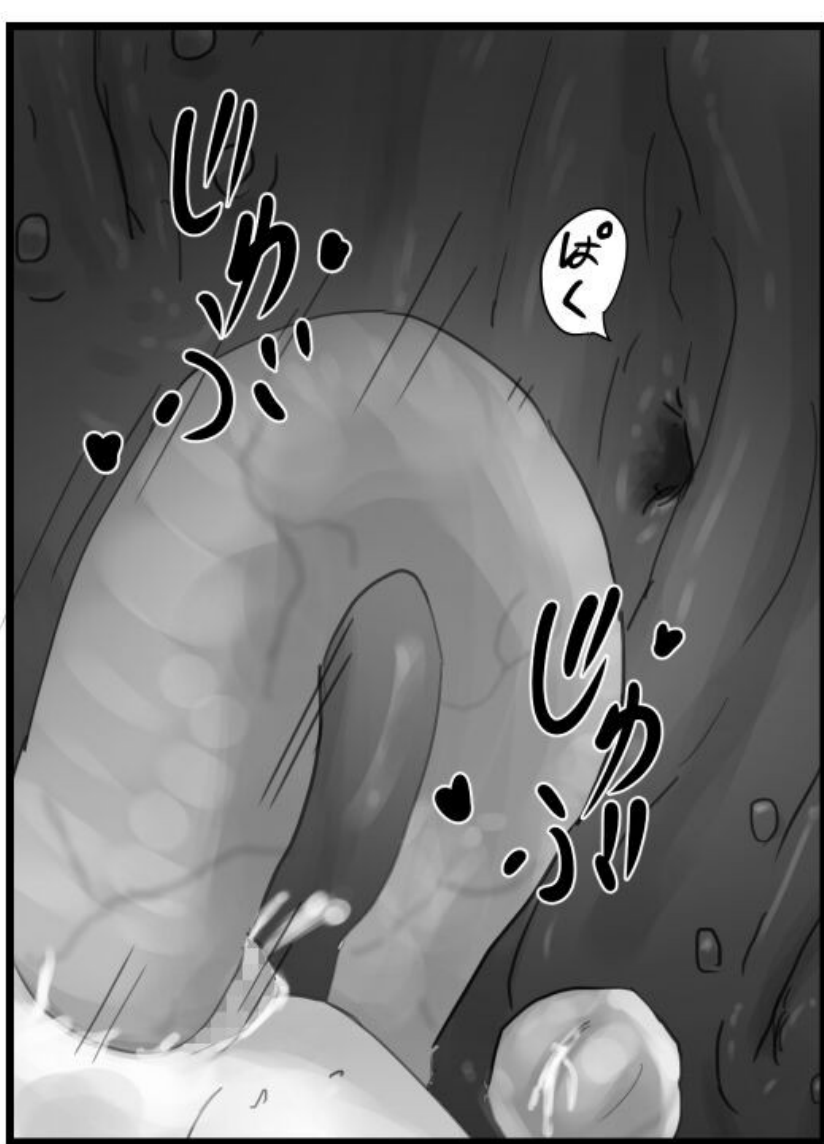


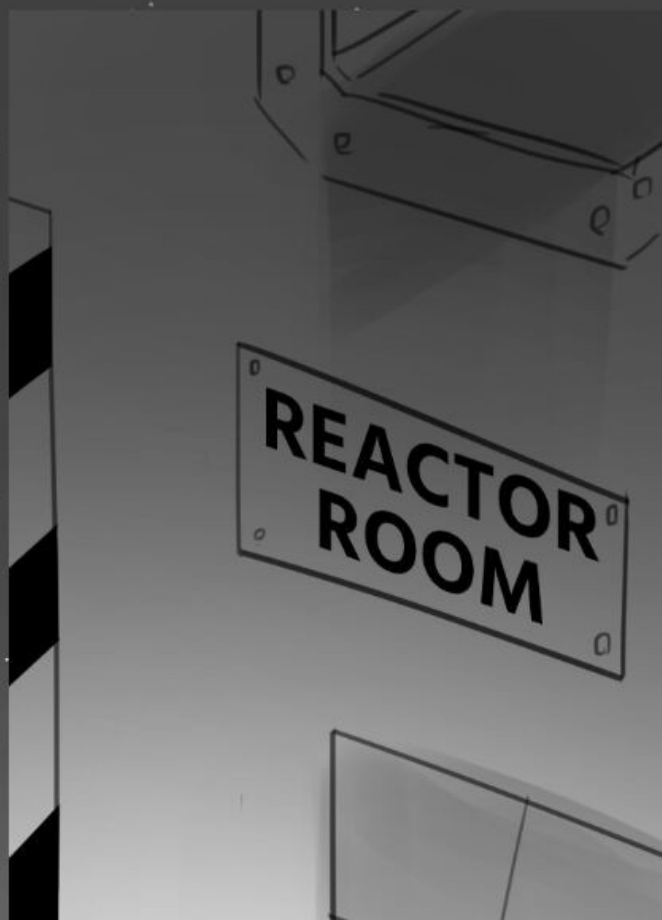
いたいっ!
痛いっ!

ぬ
る









リアクタールーム

ラダマンテュス27のあるエリアのエネルギー供給システム心臓部。ラダマンテュス27に残された僅かな資源と地下エネルギーを組み合わせ、少なくとも施設そのものが老朽化するまでの数千年は、冷凍睡眠システムを維持し続けることが出来る。

とは言え当該エリアの数万人分のコールドスリープ維持のためのエネルギーはそれなりに膨大。

施設寄生生命体

ラダマンテュス27に突如現れた謎の生命体群。

宇宙から現れたのか、元々生息していたのか、出自は不明。

いくつかの種が存在するが、目的は共通して住人との生殖行為と思われる。

施設に寄生した種は施設のエネルギーによって異常に巨大化しており、冷凍睡眠していた住人の緊急解凍とも関係があると予測される。

